

原子力発電所の運転および建設状況

原子力安全対策課 平成11年5月7日現在

設備容量	運転中 14基	計1145万kW
	建設中 1基	計 28万kW

項 目 発電所名		現 状	稼働率（進捗率）%		概 要
			平成11年度	運開始累計	
日本原子力発電㈱	1号機	運 転 中	100 100	70.1 66.9	
	2号機	運 転 中	100 100	84.0 83.4	
敦賀発電所		定期検査中	0.0 0.0	66.8 65.2	第15回定期検査(H11.1.8～) H11.1.8 11'45' 発電停止。4.3 原子炉冷却材再循環ポンプの分解点検後の試運転を実施中。「B-熱源へい差圧高」警報が発信。当該ポンプの分解点検を行い原因を調査中。
核燃料サイクル開発機構 新型転換炉ふげん発電所		性能試験中 (事故停止中)	— —	— —	H7.12.8 中間熱交換器(C)2次系出口配管からのナトリウム漏えいに伴い、21'20' 原子炉手動停止。H10.9.28～H11.9月頃 平成10・11年設備点検。 H11.4.9 原子炉補助建屋において、サイク機構の職員が右手に負傷(添付資料参照)
関西電力㈱	1号機	運 転 中	100 99.9	48.4 45.3	H11.4.29 15'45' 復水器内での海水漏えいに伴い出力を約65%まで抑制。調査の結果、2B復水器伝熱管1本に漏えいを確認。当該漏えい管のほか、ECTの結果1B・2B復水器の伝熱管93本の計94本について施検。H11.4.30 8'47' 1次冷却材ポンプ 入口配管の余熱抽出水系取配管部から水漏れが確認されたため、18'45' 発電停止、19'17' 原子炉手動停止。当該部の外観点検の結果、当該配管の曲げ管部で割れを確認。今後、詳細な原因調査を実施する。
	2号機	停 止 中	99.3 97.6	59.2 57.3	
	3号機	定期検査中	66.8 66.2	74.4 72.8	
美浜発電所					第17回定期検査(H11.4.21～6月下旬予定) H11.4.21 1' 発電停止。
関西電力㈱	1号機	定期検査中	0.0 0.0	61.4 60.1	第15回定期検査(H11.2.19～7月上旬予定) H11.2.19 0' 発電停止。3.15-29 燃料集合体の外観検査で支持格子の一部に変形を確認。原因は、炉内で燃料取り出し・装荷作業の際、変形した燃料の支持格子と隣接する燃料集合体の支持格子がかみ合ったためと推定された。
	2号機	定期検査中	0.0 0.0	70.2 68.9	第14回定期検査(H10.8.29～H11.7月中旬予定) H10.8.29 0' 発電停止。1.28 17'30' 調整運転開始。1.29 20' 制御棒1本の落下に伴い発電を停止。調査の結果、制御棒駆動装置内部構成品が腐食し、その腐食生成物により動作不良を起こしたものと推定。対策として、制御棒駆動装置全数の内部構成品を取り替える。
大飯発電所	3号機	運 転 中	100 95.7	88.6 88.1	H11.4.6 12'05' 送電線(大飯幹線)への落雷により出力約3%で所内単独運転に移行。4.8 21' 定格出力に復帰。
	4号機	運 転 中	100 96.4	83.2 82.6	H11.4.6 12'05' 送電線(大飯幹線)への落雷により出力約3%で所内単独運転に移行。4.8 13'10' 定格出力に復帰。
関西電力㈱	1号機	運 転 中	100 100	63.2 61.4	第18回定期検査(H11.1.22～4.13) H11.1.22 0'30' 発電停止。3.16 18'43' 原子炉起動。3.17 2'40' 臨界。3.18 17' 調整運転開始。4.13 14'50' 営業運転再開。
	2号機	運 転 中	100 100	64.5 62.4	
高浜発電所	3号機	運 転 中	100 100	84.3 83.8	
	4号機	定期検査中	70.1 69.7	85.2 84.7	第11回定期検査(H11.4.22～7月下旬予定) H11.4.22 1' 発電停止。
		合 計	74.0 72.4	68.0 69.0	(注) 稼働率(進捗率)は、平成11年4月末現在。 累計は、営業運転開始以降。

上段が、時間稼働率 = $\frac{\text{発電時間}}{\text{暦時間}} \times 100 (\%)$

下段が、設備利用率 = $\frac{\text{発電電力量}}{\text{認可出力} \times \text{暦時間}} \times 100 (\%)$

平成11年度安全協定に基づく軽微な異常事象報告
(平成11年4月分)

高速増殖原型炉もんじゅ 原子炉補助建屋における職員の負傷について

- ・発生日時：平成11年4月9日 10時20分頃
- ・終結日時：平成11年4月20日（再発防止対策日）
- ・放射能による周辺環境への影響：なし
- ・国の取扱い：法律に基づく報告対象

・事象概要：

高速増殖炉もんじゅは、平成7年12月から停止中であるが、4月9日10時20分頃、原子炉補助建物地下1階（管理区域内）において、サイクル機構職員が、設備改善工事計画策定の準備として現地調査を行うため、炉外燃料貯蔵設備冷却系配管室内に入室しようとして遮へい扉（鉄製で重量約10トン、高さ約2.2m、幅約1.3m、厚さ約0.5m）を開けた際、扉と壁の間に右手の人差し指と中指を挟まれ、負傷した。
(右手の指関節切断で約3ヶ月の休業災害)

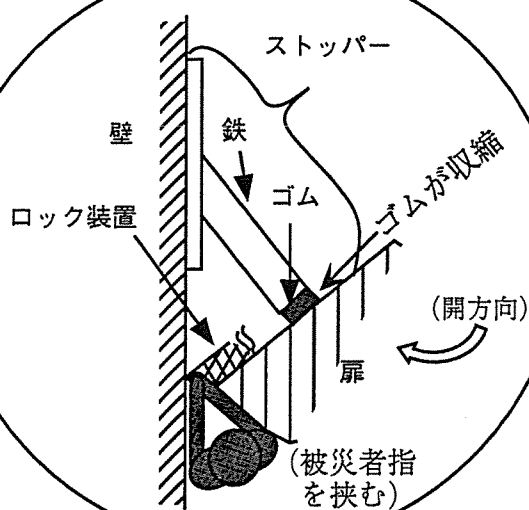
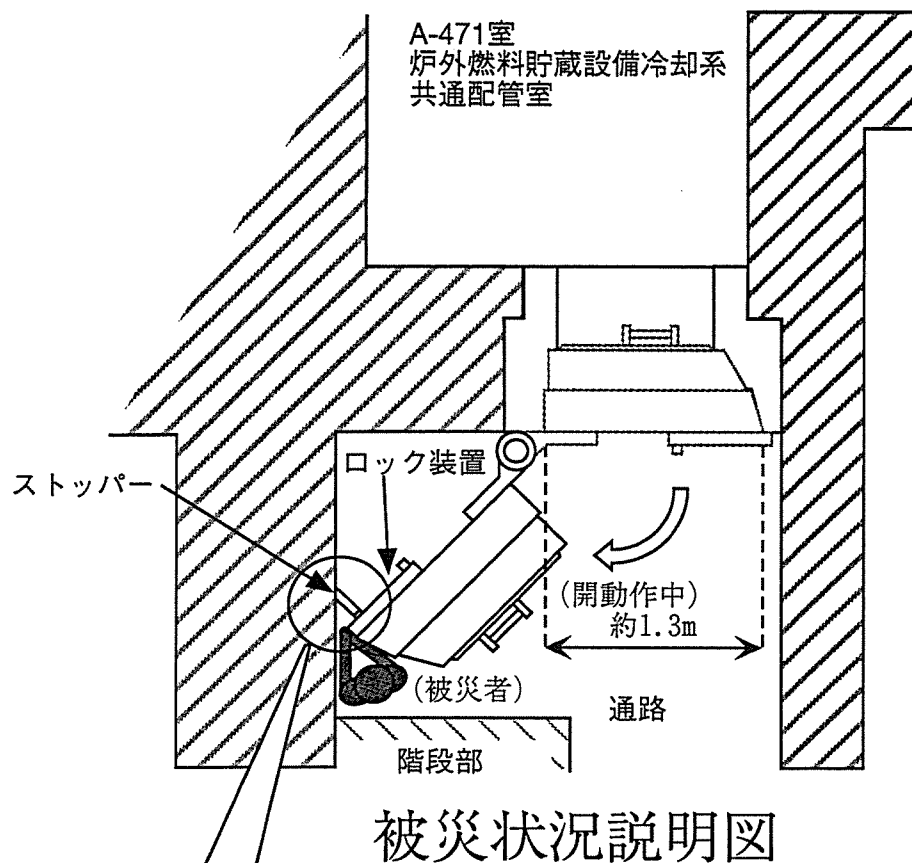
当該扉は、遮へい機能を持たせた扉で重く開きにくいことから、被災者は、勢いをつけて同扉の開放を行った。その後、扉ストッパーに当たる前に扉を止めようと右手を差し込んだが止まらず、扉外面のロック装置と側面壁の間に挟まれ負傷した。

側面壁には、扉ストッパーがついていたが、ストッパー先端部のゴムが扉開放の衝撃により収縮し、扉ロック装置と側面壁が接触したものと推定された。

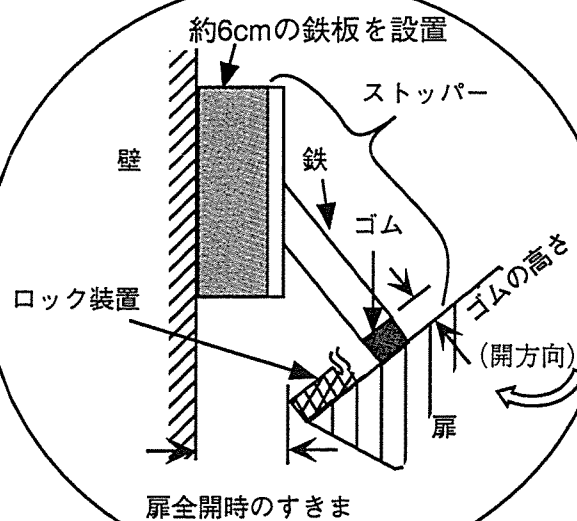
対策として、扉開放時において、扉ロック装置と側面壁とのすき間に余裕をもたせるため、ストッパー部の長さを長くするとともに、扉開放時の操作性を向上させるため、専用のチェンブロックを設置した。なお、重量扉については、扉の表面に開閉時の注意事項を表示し、操作時の注意喚起を行った。

入口扉の目的及び仕様

- ・放射線遮へい用
- ・鉄製
- ・重量：約10 t、高さ：約2.2m、幅：約1.3m、厚さ：約0.5m



被災時の状況



ストッパー対策後の状況